

# SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・  
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

**NPO法人 地域福祉サポートちた**

## も く じ

- |                             |                           |
|-----------------------------|---------------------------|
| □ 20周年記念行事の報告と御礼 .....1P    | □ 行政職員研修～協働の理解～..... 3P   |
| □ 福祉NPOのためのBCPセミナー開催 ....2P | □ 生笑一座の特別公演 開催される..... 3P |
| □ サービスラーニング研究報告会 .....2P    | □ 行政職員インターンシップ受入報告 ... 3P |
| □ NPOあいネットスタッフ研修.....2P     | □ インフォメーション..... 4P       |

## 法人設立20周年記念行事の報告と御礼

旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。本年もどうぞよろしく申し上げます。



昨年12月15日午後、認定NPO法人絆（東浦町）どれみふぁラソ♪（写真左）による華やかな演舞で彩られたオープニングから始まった法人設立20周年記念行事は、

法人会員・役員をはじめ多方面でご活躍されます218名の皆様にお越しいただきましたこと、心より感謝と御礼を申し上げます。

当日は、これまで法人が歩んできた20年のあゆみを懐かしい映像でお届けし、次世代とともにこれからの社会を考える場として、講演会、パネルディスカッションを開催させていただきました。

講演会に慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の前野隆司先生をお招きし、幸福学入門と題して幸せのメカニズムを構成する4つの因子についてレクチャーを受けました。



幸福学の第一人者である前野隆司先生

そもそも「幸せ」の定義とは、感情としての幸せが良好な状態であることを指し、その状態が続くために必要な健康・福利・福祉がある社会という前提にあるWell-being and Happinessだとして、いろんな研究や調査から導き出された結果が「幸せの4つの因子」でした。

その4つの因子のうち、個人のあり方として分類された「自己実現と成長の因子（やってみよう）、前向きと楽観の因子（なんとかなる）、独立と自分らしさの因子（ありのまま）」は夢や目標を持ち、前向きに、自分らしく生きることが幸せにつながるとされ、残りの1つは関係性の質として、つながり

と感謝の因子（ありがとう）に分類されていました。これは、社会課題解決のための活動への参加意欲と幸福度の関係（内閣府経済社会総合研究所「若年層の幸福度に関する調査」（2010～2011年））より、既に問題解決をする活動に関わっていると幸福度が高いという結果がありました。他者への感謝、利他、許容、承認、信頼、尊敬、自己有用感がお互いに生まれてくる。つまり、他者とのかかわりがあってこそ成り立つ「おたがいさま」が幸せを呼ぶ近道ということになりますね。

最後のパネルディスカッション（写真右）ではNPO法人岡崎まち育てセンター・りた 事務局長 三矢勝司さんの軽快なファシリテーションによりパネ



ラーのお三方、NPO法人ゆいの会 理事 松下典子さん、NPO法人ゆめじろう 理事長 出口晋さん、NPO法人PakaPaka 事務局長 土肥りささんのこれまでの経験談と幸せの4つの因子に重ねて感想を伺い、また、会場の皆様にも幸福度を尋ねしながら、それぞれのお立場によるこれからの抱負をお聞かせいただきました。次世代とともに幸せの輪が広がる利他的な社会を目指そうと、会場が一体となったのではないのでしょうか。

改めて、知多地域の「たすけあい」、多様な働き方ができる職員と地域と多様なサービスを楽しむ利用者の「三方よし」、ご縁から新たな志の「志縁」が生まれるような出会いの場づくりを使命に、そして社会の一員として法令遵守の立場を明確にした真摯な態度で法人運営を担っていきたくて考えております。今後とも役員一同身を引き締めて、その責務に励んで参ります。

引き続き、皆様のご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。（市野恵）

## ■福祉NPOのためのBCPセミナー開催

知多市市民活動センターにて11月23日、福祉NPOのための「事業継続計画BCPセミナー」を開催した。これは(一財)ペガサス財団より助成金を受け、(N)ボランタリーネイバーズの協力の下、(一社)危機管理教育研究所主席研究員の鍵屋一氏を招き、防災計画づくりの基本を学んだ。参加者18人。内容は以下の通り。

講師の出身地である秋田県男鹿半島には「ナマハゲ」の伝統文化があり、ナマハゲ役の消防団員は、自分が担当する地域の家族構成の情報収集を兼ねており、また、避難支援の要配慮者情報は「ナマハゲ台帳」と呼ぶなど、年に一度の祭りを平時の災害時に備えるなどの知恵が息づいている。

東日本大震災で助かった高齢者・障がい者への調査によると「避難を支援した人」の1位家族・同居者、2位は近所・友人、3位が福祉関係者の順。高齢者は死亡者の約6割、障がい者の死亡率は2倍。また震災関連死においては95%が66歳以上との結果より、災害時には近所や福祉とのつながりや福祉防災計画がいかに重要であるかがわかる。

2018年厚労省より福祉事業所へ事業継続計画(以下、BCP)策定の通知がなされた。BCPとは、災害時の初動対応「非常災害時マニュアル」とは異なり、発災後から事業復帰までの時系列のシナリオである。通知には、県や市町村において平時から市町村や消防団、地域住民等が一体となって災害計画の作成、訓練の実施、複数の避難先の確保などに取り組み、それらを自治体が確認することも必要として、自治体間連携の準備・対応も求められている。

事例報告では、(N)りんりん理事長 渡邊千恵氏より、昨年4月に作成したBCPを参考に、作成に至る経緯やねらい、組織の実情に合わせた工夫点や訓練上の課題などが報告された。

りんりんでは、発災直後から3日間は職員とその家族の身を守り、その後、一週間は市の事業を行い日常業務に復帰していくとしている。この間の事業体制、安全確認を行う利用者の優先順位や確認項目を職員と話し合いを重ねながら作成することで事業再開までの条件や順序が共有されることによりスタッフの安心感にもつながる。利用者の安否確認の優先順位は「医療や介護」「環境」「家族状況」などから、ケアマネ、ヘルパー、デイサービスの各グループで検討し、中学校区班毎に優先度を決定したが、立場によって判断が異なることもあった。また、災害時の道路の状況などについては、ツイートなどの情報を活用するしかないという課題も見えていた。

今後については、BCPがたとえ完成しても、職員や利用者の環境が変わるため、継続的に中身を見直していく必要があるとのことだった。(安藤)

## ■サービスラーニング研究報告会

12月13日、日本福祉大学美浜キャンパスにてサービスラーニング研究報告会が開催された。社会活動を通して市民性を育むことを目的に、学生は知多地域のNPOについて前期で学び、夏期5日間で現場訪問先で学生自ら企画したことを実践する。この日は、実践から見えた課題や関心ごとについて、後期授業で研究した結果の報告がなされた。

参加した山崎ゼミの研究題材では、NPOの経営、居場所、知多半島の歴史、コミュニケーションのあり方、高齢者が暮らしやすい生活の5グループの報告がなされた。関係者からアンケートをとり分析し、課題解決の提案をしたグループもあった。

学生が現場の活動を通して地域を知り、課題に気づき、考えることが、地域社会を継続していくことにつながると感じた。(竹内)

## ■NPOあいネットスタッフ研修

3年目を迎えた(N)あいちNPO市民ネットワークセンター(みよし市)スタッフ研修は、研修最終年度の目標に「現場力を聴き、その内容を組織の取り組みに生かす」を立て年5回のプログラムを実施中。4回目となる12月18日は半田市と東浦町に訪問した。

1か所目は(N)ごんのふるさとネットワーク(半田市)が運営するはなのき村内で、シニアの生きがい、介護予防を目的に活動するじば工房村上眞喜子さんと安井洋



はなのき村「ごんの足跡」にて話を聞くNPOあいネットのスタッフ

子さん、江戸時代から続く米農家8代目として活動する(株)おいしい村村長末松園子さん、(N)半田市観光協会榎原宏さんから、地元商店やNPOと協働して地域づくりを進めている事例を伺った。

2か所目の地域の縁側グリーンラソ(東浦町)では、(認N)絆代表理事山崎紀恵子さんが、常設の居場所が欲しいと考え、町長や社協に掛け合い、想いを伝え実行してきた経験談を伝え「何のためにやっているのかを時に振り返り、結果自分のためでもあった」と笑顔で話した。

視察後は「少しずつ繋がりや出来ることの輪を広げていくその積み重ねが大切であると思う」「地域のつながりを持っていこうと思った」「一人の力、団体ではできない事を様々な人に思いを伝え巻き込んでいく力がすごいなと思った」と振り返った。(竹内)



## ■行政職員研修～協働の理解～

今年度は9～11月にわたり武豊町・知多市・東海市・一宮市の行政職員研修を行った。本研修では地域課題に取り組む団体を訪れ、活動者から地域と連携し課題解決する視点を直接聞くことができる。

知多地域ではこれまで30年近くにわたり住民互助として助け合い活動が行われ、それらが組織化し地域づくりが行われてきた。その中で培われてきた行政・地縁・NPOの連携などの事例から、参加者は協働の必要性をより身近に感じ



(N)新青樹が運営する中ノ池公園プレーパークで説明を受ける東海市職員

「自分たちにできることは何か？」を肌で感じることができた。さらに、見学の後のワークショップでは「行政職員として何ができるのか」を参加者で共有し「協働」とは何かを再確認した。

参加者からは「市・NPO・市民それぞれができることを共有しあい、相互で支え合っていく仕組みづくりが大切であることが分かった」「他の課が何をやっているのかを把握し市民の声を適切につないでいくことが必要だと理解できた」などの感想があった。(安藤)

サポートちたでは、行政職員、民生委員等の地域の役員を対象にした研修を様々な目的に応じて企画運営を行います。地域のニーズを知る機会として、また課題共有の機会として活かしませんか。担当、安藤までお気軽にお問合せください。

## ■生笑一座の特別公演 開催される

12月7日、東海市しあわせ村にて、生笑一座の特別公演が開催された。

(主催：日本福祉大学ニッセイ財団研究プロジェクト、(N)知多地域成年後見センター)参加者は101人。



エピソードを交えて生笑一座の紹介を行う、奥田代表とメンバー

生笑一座(いきわらいちぎ)は、北九州でホームレス状態を経験した人たちと共に活動する「(認)抱樸(ほうぼく)」の理事長奥田知志さんと仲間たちによって旗揚げされた。厳しい野宿の生活を経験してきたからこそ言える「生きていれば、笑える日が来る」「『助けて』と言えば新しい出会いがきつとある」というメッセージを力強く、かつ楽しく朗らかに伝え、会場と一緒に語りあった。

参加者アンケート(抜粋)からは、「当事者の方々のお話を聴かせていただいて、つくられたストーリーではない、ほんとうの様子が私の心の中にぐんぐん入ってきました」「日々仕事をする中で、お金がなくても人とつながっていることが大切だと感じます。自分も他人に迷惑をかけるけど他人にかけられる迷惑を許せる、そんな社会になるといいと思いました」などの声が寄せられた。(幸前)

## ■行政職員インターンシップ受入報告

8月～12月、愛知県職員採用2年目10人、大府市職員採用7,8年目2人、計12人を受け入れた。NPOでの業務体験を通じて多様な生き方、価値観等に接することにより、コミュニケーションの重要性や奉仕の精神などを体験的に学び、自治職員としての立場や役割を自ら考えることを目的としている。感想(抜粋)は下の通り。(安藤)

・一番感じたことは職員の方々がどうしたら今の福祉が良くなるのか、どうしたら地域に根付いた活動ができるのかをものすごく考えていたことであり、自分の業務を行うにあたって参考になりました。福祉という分野は今まで関わったことがなかったので不安でしたが皆様が優しく接してくださったのでとてもよかったです。

・行政とNPOの役割の違いや協働の重要性、難しさを感じ、お互いの仕事について理解を深める必要があると感じました。今回、自身の普段の業務とは違う分野の話も多く聞くことができ、視野を広げることができました。問題に対して地域に受け皿があるというのは大きな強みになると思うため、今後も周辺のNPOや民間の方と協働していけるよう努めていきたいです。

・初めての知多市、初めての現場体験研修ということで初日は緊張しておりましたが、サポートちたの職員の方々のアットホームな雰囲気のおかげで、楽しく、充実した4日間を過ごせました。研修で学んだことを活かし、今後も職務に励みたいと思います。

・NPO法人の仕事内容について学ぶことができました。営利を問わず地域貢献を第一に考えているスタッフの方々の姿から、今後社会人として必要なものを得ることができま



愛知県2年目職員インターンの皆さん

した。また私の職種とは違う分野を経験させていただき、私自身の視野が広がったと感じています。

# サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

## ■評価結果や審査の視点から考える！助成申請相談会

民間福祉団体の活動を幅広く応援する『WAM(ワム)助成』は、支援の対象者や関係者、それらを取り巻く環境への効果や、地域や社会への成果の波及を想定した計画づくりが期待されています。審査や成果の考え方を知り、募集内容の理解を深めるとともに、申請者の計画の具体化に役立つ個別相談を行います。

・説明会 13:05～14:10  
・相談会 14:15～17:00 (1団体45分×6団体まで)  
〈日時〉1月14日(火) 13:00～17:00  
〈会場〉知多市市民活動センター 会議室  
〈主催〉愛知県 〈協力〉(N)地域福祉サポートちた  
〈申込〉(N)ボランティアネイバーズ  
Fax:052-979-6448 メール: vns@vns.or.jp

## ■第18回 福祉たすけあいフォーラム

“自分らしく”福祉の分野で活躍するみなさんとともに明日の福祉を共に語り合しましょう。

第1部「地域福祉の明日」  
全国社会福祉協議会副会長 古都賢一氏  
第2部「次期2021年介護保険法改正への動き」  
厚生労働省老健局 栗原正明氏  
第3部「幸せな子育て・自分育て」  
マザーカレッジ主宰 江藤真規氏  
第4部「パネルトーク「自分らしく輝く人たち」」  
来場者全員参加  
〈日時〉1月19日(日) 10:00～16:00  
〈会場〉名古屋市総合社会福祉会館 7階 研修室  
(北区総合庁舎内)  
〈参加費〉1,500円(主催団体会員の場合1,000円)  
〈主催〉(N)あいち福祉ネット、(N)なごや福祉ネット  
〈申込/問合せ〉(N)あいち福祉ネット(ネットワーク大府内)  
☎:0562-44-3735 Fax:0562-44-2953  
メール: npo@horae.dti.ne.jp

会員情報 ☆:\*.\*.☆.☆.°.☆:\*.☆:\*.☆.☆.☆.☆.☆.☆.☆.☆.☆

【正会員】団体・個人 56 【準会員】団体・個人 62  
(2019年12月末現在)

## ■令和元年度 NPO法人びすた〜り 活動発表会

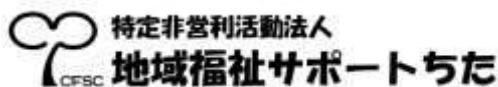
〈日時〉2月22日(土) 10:00～16:00  
〈会場〉知多市福祉活動センター大会議室  
〈内容〉午前の部  
令和元年度 高校キャラバン隊活動報告  
座学活動報告  
天野クッキング報告  
当事者研究発表会  
・会話から対話への研究  
・チームSHAKKIN 報告  
午後の部 グループワーク  
〈参加費〉無料  
〈申込/問合せ〉(N)びすた〜り 地域活動支援センターふるぽ  
担当 岩瀬・村上  
☎:0562-85-1185 Fax:0562-85-1183

## ■公募スタート

### 「休眠預金草の根活動支援事業(中部エリア)」

困難な課題にチャレンジし、創造的な課題解決活動を生み出す事業の実行団体を公募しています。

〈対象テーマ〉  
① 虐待、いじめ、不登校、ひきこもり、自殺など子ども・若者が抱える深刻な課題への支援  
② 日本社会における在留外国人が抱える課題解決への支援と多文化共生  
③ 過疎地域におけるコミュニティの維持と環境保全  
〈採択予定実行団体〉  
各テーマそれぞれに1チームを採択する。  
チームの構成員は、課題対応可能な協議体設立を目指し、協議体の幹事役となる「コーディネート団体」1団体と、課題対応事業を具体的に実施する「課題実行団体」3～5団体程度を想定。  
〈応募期間〉'19年12月10日(火)～'20年2月3日(月)  
〈対象地域〉中部ブロック(愛知県、岐阜県、静岡県、長野県、三重県)  
〈助成額〉1チーム 3年間で最大3,000万円  
〈助成対象期間〉2020年3月～2023年3月 ※3年未満  
〈問合せ〉(一財)中部圏地域創造ファンド 担当 三島、青木  
☎:052-228-0350 Fax:052-228-0360



〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1  
知多市市民活動センター1階  
TEL 0562-33-1631 FAX 0562-33-1743  
メール spchita@ams.odn.ne.jp



◆地域福祉サポートちた  
HP: cfsc.sunnyday.jp/  
FB: facebook.com/sapochita/

◆手づくりカフェAda-coda  
HP: cfsc.sunnyday.jp/01-adacoda/  
FB: facebook.com/Adacoda.cafe/